初級 『百人一首』とそのパロディを読んでみよう！①

【菱川師宣画『小倉百人一首』】

天智天皇

秋の田の
かりほの①
庵の苫*②③
あらみ
わか④ころも手は
露に⑤ぬれつゝ⑥

＊苫…茅などで作った、家を覆って雨露をしのぐためのもの。

問題1

Aの下の活字は、図内のくずし字を活字になおしたものです。活字部分の傍線部①～⑤のひらがなの「字母」（もとの字）を調べて、漢字で書いてみよう。

問題2

傍線部⑥の記号はどのようなことを表しているか、説明してみよう。

①

②

③

④

⑤

年　組　番

名前

点

初級 『百人一首』とそのパロディを読んでみよう！②

【幽双庵著『犬百人一首』】

B

鈍智てんほう＊

あきれたの ①

かれこれ

□

の友を

あつめ ②

我だまし手は

終にしれつゝ ＊③

＊てんほう…ある説では、「伝法」と書き、でたらめなふるまいをする人を表す。
＊終に…「ついに」と読む。

問題3

Bの下の活字は、図内のくずし字を活字になおしたものです。活字部分の傍線部①～③のひらがなの「字母」（もとの字）を調べて、漢字で書いてみよう。

①

②

③

問題4

B下部の挿絵や図Aの和歌を参考にして、空欄に当てはめるのに最適な言葉を書いてみよう。

□

の友

ヒント 何で遊んでいるのかな？ 挿絵をよく見てみよう！

年　組　番

名前

点

解答

問題1（括弧内はそのひらがな）：
①本　②能　③越　④可　⑤爾

問題2：ひらがなの同じ文字を繰り返すということを表している。

問題3（括弧内はそのひらがな）：
①礼　②津　③志

問題4：いご（囲碁）

教材について

ねらい：代表的な古典作品によってくずし字について学ぶ。また、そのパロディと読み比べてみることで、江戸時代の人々の、古典作品に接する自由な姿勢を知り、古典作品を読む楽しさを味わう。

時間配分：図AとBで、それぞれ順番に解答する。古語辞典や仮名字典（くずし字一覧）などを利用して調べながら解くとよい。解答時間10分ずつと、解説でトータル50分。

問題解説

小学生や中学生でも触れる機会の多い古典作品として「百人一首」を扱い、同時にそのパロディを読み比べることで、古典を読み、再創造する楽しさを味わうことをねらいとして作成しました。

問題1や**問題3**は、ひらがなそのものを答えるのではなく、ひらがなのもとの漢字（字母）をくずし字の形から推測してみることを目的としています。出題した字は、いずれも現代のひらがなとは異なる字母で、かつ頻出の字を選んでみました。ちなみに、**問題1**の②「**の**」は「**能**」をくずした字ですが、初句「秋の田の」の二つの「**の**」は両者とも現代のひらがなと同じ「**乃**」をくずした字です。形の上では、右下の払いの部分が逆向きになっていることなどが見分けるヒントになるのですが、このように同じひらがなでも字母が違うと形が変わることはもちろんのこと、中には同じ字母であっても形が微妙に違うものもありますので、とにかく字母を意識して形に慣れることが必要です。くずし字一覧などを生徒に配布して、字母をくずした字体を比較させながら字のくずし方に慣れて行くという地道な作業の繰り返しが中級者への早道になります。また、時間に余裕があれば、書写や書道の時間などを利用して、筆を使って実際のくずし字を書いてみても面白いでしょう。この作業は、問題や資料が配布、書き込み自由なアプリを利用すれば、生徒の持つ、ペン入力可能な端末でも行えると思います。

問題2は、繰り返し記号を見分ける練習です。繰り返し記号は「踊り字」といいますが、ひらがなの踊り字（ゝ）や、漢字の踊り字（々）、二字以上の繰り返し（〳〵）があります。同時に教えるとよいでしょう。

問題4は、やや難度の高い問題です。図Aの「百人一首」と比較すると、該当部分の文字数は二文字であることがわかりますので、図B空欄直後の「の友をあつめ」という部分から、挿絵も参考にして類推させてみましょう。挿絵は、男たちが碁盤を囲んでいる図であることに気づけば答えられます。

教材解説

図Aは『百人一首』で、引用は国立国会図書館のデジタルコレクションにある、延宝八年（一六八〇）に出版された菱川師宣画とされる本を利用しました（https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2541162）。和歌は、秋の田の、仮に作った小屋の覆いの編み目が粗いので、私の袖は露にぬれている、という意味です。

図Bは『犬百人一首』で、引用は国立国会図書館のデジタルコレクションにある、寛文九年（一六六九）に出版された本を利用しました（https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/932185）。狂歌（滑稽な内容の和歌）は、知力の鈍いならず者が、囲碁で友をだまして勝とうとしますが、知力が鈍いゆえに、その手口が挙句の果てにばれてしまった、という意味です。

授業では、AとBを同時に扱うことで、よく知られた百人一首を題材にして、言葉をたくみに置き替えながら新しい歌を作って楽しもうとする、江戸時代の人々の自由な発想力を味わうことができるでしょう。

（担当：加藤十握）